

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	トリエチルアミン
SDS コード	:	C8-08
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性		
	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分 2
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過氧化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
	急性毒性 (経皮)	区分 3
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分 4
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性 / 刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (中枢神経系)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (呼吸器系)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 3
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
(GHS JP)

GHS02



GHS05



GHS06



GHS08

注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

危険有害性 (GHS JP)

: 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)
 飲み込んだ場合や吸入した場合は有害 (H302+H332)
 皮膚に接触すると有毒 (H311)
 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷 (H314)
 呼吸器への刺激のおそれ (H335)
 臓器の障害 (中枢神経系) (H370)
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (呼吸器系) (H373)
 水生生物に毒性 (H401)
 長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
 容器を接地しアースをとること。(P240)
 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)
 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
 静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
 環境への放出を避けること。(P273)
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

: 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312)
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)
 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)
 直ちに医師に連絡すること。(P310)
 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P361+P364)
 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

保管

: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
 施錠して保管すること。(P405)

廃棄

: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
トリエチルアミン	≥98%	C6H15N	(2)-141	既存化学物質	121-44-8

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹸で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。
口をすすぐこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災危険性 : 引火性の高い液体及び蒸気。
- 爆発の危険 : 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い**

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗いうがいをすること。
作業所の十分な換気を確保する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
防爆型装置を使用する。

- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。
- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。
- 保管温度 : 冷暗所保管

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

- 皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴
- 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 外観 : 液体
- 色 : 無色透明
- 臭い : アンモニア臭
- pH : データなし
- 融点 : -115°C
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : 90°C
- 引火点 : -8.8°C
- 自然発火点 : データなし
- 分解温度 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 蒸気圧 : データなし

相対密度	: データなし
密度	: 0.73 g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 多くの有機溶剤に可溶。 水: 80 g/l (25°C)
n-オクタノール/水分分配係数(Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: 1.2 - 8 vol %
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性	: 酸と激しく反応し、また水分が存在するとアルミニウム、亜鉛、銅、及びこれらの合金に対して腐食性を示す。強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。
避けるべき条件	: 日光、湿気、熱。裸火、火花、静電気等の発火源。酸類、強酸化剤、金属との接触。
混触危険物質	: 酸類、強酸化剤、金属
危険有害な分解生成物	: 窒素酸化物

11. 有害性情報

トリエチルアミン	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、182 mg/kg (DFGOT vol.13 (1999))、460 mg/kg (ACGIH (7th, 2015)、DFGOT vol.13 (1999)、PATTY (6th, 2012))、590 mg/kg、560 mg/kg、730 mg/kg (DFGOT vol.13 (1999))、1,029 mg/kg (DFGOT vol.13 (1999)) の 6 件の報告がある。1 件が区分 3 に、5 件が区分 4 に該当することから、件数の最も多い区分 4 とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 値として、415 mg/kg (DFGOT vol.13 (1999))、416 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、420 mg/kg (ACGIH (7th, 2015))、578 mg/kg (DFGOT vol.13 (1999))、580 mg/kg (SIAP (2012)) の 5 件の報告がある。これらに基づき区分 3 とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 値 (4 時間) として、1,250 ppm、2,600 ppm (DFGOT vol.13 (1999))、2,633 ppm (SIDS (2012)) の 3 件の報告がある。1 件が区分 3 に、2 件が区分 4 に該当することから、件数の最も多い区分 4 とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (75,360 ppm) の 90%より低いいため、ミストを含まないものとして ppm を単位とする基準値を適用した。新たに入手した情報に基づき、区分を見直した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	ウサギでの皮膚への 3 分、1 時間又は 4 時間の閉塞適用において腐食性であることから (DFGOT vol.13 (1999))、区分 1 とした。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギの眼に対する本物質 0.1 mL の適用において腐食性であることから DFGOT vol.13 (1999))、区分 1 とした。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	モルモットの皮膚感作性試験で陰性であり、ヒトのパッチテストにおいても皮膚感作性は認められないことから (DFGOT vol.13 (1999))、区分外とした。
生殖細胞変異原性	In vivo では、マウスの末梢血を用いた小核試験で雄で不確かな結果、雌で陰性の結果である (NTP DB (Access on June 2016)) が、この不確かな結果については、再現性確認がされていないことから、今回陽性の判断を行わなかった。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の姉妹染色分体交換試験で陰性である (DFGOT vol.13 (1999)、ACGIH (7th, 2015)、環境省リスク評価第 6 巻 (2008)、NTP DB (Access on June 2016))。以上より、ガイダンスに従い分類できないとした。
発がん性	既存分類結果として ACGIH が A4 に分類しており (ACGIH (7th, 2015))、本項は分類できないとした。なお、本物質を含む多くの化学物質にばく露された作業者に種々のがん、特に膀胱がん発生率の増加がみられたが、原因物質は本物質ではなく、1-ナフチ

トリエチルアミン	
	ルアミンなど芳香族アミン化合物及びベンジジンと考えられている (DFGOT vol. 13 (1999))。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。なお、ラットを用いた飲水投与による3世代試験でいずれの世代にも生殖発生影響はみられなかったとの報告 (環境省リスク評価第6巻 (2008)、ACGIH (7th, 2015))、並びに妊娠ウサギに静脈内注射した試験で母動物毒性発現量より低用量で胎児毒性がみられたとの報告がある (環境省リスク評価第6巻 (2008)、ACGIH (7th, 2015))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでは本物質の吸入ばく露により脳波の変化がみられるとの報告がある (PATTY (6th, 2012))。実験動物ではマウス又はラットを用いた4時間の単回吸入ばく露試験で、区分2のガイダンス値範囲内の用量で気道刺激作用、呼吸困難、興奮、振戦、痙攣、協調運動障害がみられたとの報告がある (ACGIH (7th, 2015)、DFGOT vol. 13 (1999))。以上より区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。なお、ヒトのボランティアでの本物質の単回吸入ばく露試験で視覚障害(霧視、視力低下、コントラスト感度低下)と角膜浮腫がみられたとの報告 (ACGIH (7th, 2015)、DFGOT vol.13 (1999)、IRIS (1991))があるが、これらの影響は本物質の腐食性によるものと考えられる。また旧分類ではマウスを用いた吸入ばく露試験において呼吸数の低下が156~180 ppmの低濃度で認められているとの記述 (ACGIH (7th, 2001)) および腐食性であることから、区分1(呼吸器)としていたが、ばく露時間が不明であるため分類の根拠には用いなかった。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについては関連する情報は無い。実験動物においては、ラットを用いた短期の高濃度ばく露の例として、10日間吸入ばく露した試験報告では区分2相当の4,140 mg/m ³ (ガイダンス値換算:0.46 mg/L)で呼吸器への影響(鼻腔の壊死性炎症、気管で扁平上皮化生、死亡例で肺の血管周囲浮腫)の報告がある (環境省リスク評価第6巻 (2008))。以上より、区分2(呼吸器)とした。なお、旧分類でラットを用いた試験で中枢神経系への影響がみられ、ヒトにおいても視覚障害がみられるとして中枢神経を標的臓器としているが、当該のラットの試験について詳細が不明である (環境省リスク評価第6巻 (2008)) こと、ヒトの視覚障害は刺激性に起因したものと考えられることから、今回、中枢神経系を標的臓器とはしなかった。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

トリエチルアミン	
水生環境有害性 短期(急性)	藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)72時間 ErC50 = 7.97 mg/L(環境庁生態影響試験, 1999、環境省リスク評価第6巻, 2008)であることから、区分2とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がない(難分解性、BODによる分解度: 34%, 25%, 26%(既存点検, 1990))が、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間 NOEC(r) = 1.1 mg/L(環境庁生態影響試験, 1999、環境省リスク評価第6巻, 2008)、甲殻類(ネコゼミジンコ)の7日間 NOEC = 7.1 mg/L(SIAP, Conclusions Agreed in CoCAM 2, 2012)であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(難分解性、BODによる分解度: 34%, 25%, 26%(既存点検, 1990))、魚類(メダカ)の96時間 LC50 = 24 mg/L(環境庁生態影響試験, 1999、環境省リスク評価第6巻, 2008)であることから、区分3となる。以上の結果を比較し、区分3とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG)	: 1296
正式品名 (IMDG)	: TRIETHYLAMINE
容器等級(IMDG)	: II
輸送危険物分類 (IMDG)	: 3 (8)
危険物ラベル (IMDG)	: 3、8
クラス(IMDG)	: 3
副次危険性 (IMDG)	: 8
少量危険物(IMDG)	: 1 L
微量危険物(IMDG)	: E2
包装要件(IMDG)	: P001
IBC 包装要件(IMDG)	: IBC02
ポータブルタンク包装規定 (IMDG)	: T7
輸送特別規定-タンク(IMDG)	: TP1
積載区分 (IMDG)	: B
引火点 (IMDG)	: -11° C c.c.
特性および観察結果 (IMDG)	: Colourless liquid with a strong ammonia-like odour. Flashpoint: -11° C c.c. Explosive limits: 1.2% to 8%. Miscible with water. Harmful by inhalation. Causes burns to skin and eyes. Irritating to mucous membranes.

緊急時応急措置指針番号

: 132

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA)	: 1296
正式品名 (IATA)	: Triethylamine
容器等級 (IATA)	: II
輸送危険物分類 (IATA)	: 3 (8)
危険物ラベル (IATA)	: 3、8
クラス (IATA)	: 3
副次危険性 (IATA)	: 8
PCA 微量危険物(IATA)	: E2
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	: Y340
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	: 0.5L
PCA 包装要件(IATA)	: 352
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	: 1L
CAO 包装要件(IATA)	: 363
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	: 5L
ERG コード (IATA)	: 3CH

海洋汚染物質

: 非該当

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : 132

特別な輸送上の注意 : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

化審法 : 優先評価化学物質 (法第2条第5項)

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条)
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2)
トリエチルアミン
危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号)

労働安全衛生法	:	皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧) 皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧)
毒物及び劇物取締法	:	非該当
消防法	:	第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
大気汚染防止法	:	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申) 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
海洋汚染防止法	:	有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	:	輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	:	引火性液体類(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	:	引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	:	その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法	:	車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	:	特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	:	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) トリエチルアミン(管理番号: 277)(100%)

16. その他の情報

参考文献	:	17423の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	:	このSDSは林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における当該化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。